

# N-JOHO局



第36回

はじめに

2018年4月発行 製作:ネダテ住建

一段と冷え込みの厳しかった冬も、ようやく少しずつ暖かくなり春の訪れを感じられる季節になりました。春になると新しい環境になったり、新しい目標を立てたり、新年度に向けて新たな気持ちでスタートする方も多いのではないのでしょうか？

私たちスタッフ一同も、一年一年新たな気持ちでスタートを切り、地域密着に、より力を入れていきたいと思っております！

N-JOHO局もお陰様で36回目の発行となりました。一人でも多く地域の皆様にご覧になっていただけるよう、努力して参ります。これからのネダテ住建もぜひ宜しくお願い致します。

当社は「安心をつくります」という言葉を家という形で作っていく工務店です。  
ご相談・設計見積等はもちろん無料です。

小さな修繕から増改築・新築等  
地場の私共にお任せ下さい。



LIXILリフォームショップ  
ネダテ住建

株式会社ネダテ住建



0120-131-556

横浜市磯子区岡村1-3-15

TEL : 045-752-1034

FAX : 045-753-5198

Mail : j.nedate@triton.ocn.ne.jp

HP : <http://www.nedate-j.com/>

## 副編集長のコラム ～食レポ～

春、若葉の匂うよい季節です。  
花粉症の方にはお見舞い申し上げます。  
私、このコラムを書きながら、目が痒く鼻水がでます。  
あまり、なったことがない症状です、...

鍋、寒い冬に食べるもののイメージですが。  
実は私、大の鍋好きです。  
ですので、年間を通していつでも食べます。  
水炊き・寄せ鍋・湯豆腐・豚しゃぶ・チゲ鍋などなど、  
いろいろな出汁で数多くの具材を食します。時にはシンプルに。  
そうそう、豚肉ミルフィーユは食べ過ぎます。  
多くは自宅鍋です。  
がしかし、「もつ鍋」気分の際は必ず杉田に出かけます。

### 【もつ鍋 ほどほど】

神奈川県横浜市磯子区杉田3丁目2-4  
045-775-1684

京急「杉田駅」から徒歩5分、その店の暖簾をくぐると人懐こいマスターが笑顔で迎えてくれます。カウンター内の料理を切り盛りする女性は店主の奥様。

お客さんは皆、マスターの人柄と奥様の料理の腕前に誘われてやってくるのです。

一品料理をいただきながら、いよいよメインの「もつ鍋」。ぶりんぶりんの厚手のもつに、にら・キャベツの入った鉄鍋を火にかけて数分後、特製の出汁の香りの湯気が漂い始め、やがてぐつぐつ煮立ったら食べどころ、本当にウマイです。

締めには残りの出汁でつくる雑炊かラーメン、またこれがたまりません。

絶対に失望はさせません。

副編集長には唯一無二の鉄鍋、いや鉄板のお店です。

根建金五の名前を使っていただき、是非一度ご夫妻に会いに行ってみてはいかがでしょうか。



おかげさまで

祝

15周年

▼今年も弊社部長金五の  
挨拶より始まりました



▼協力店会の皆様のご協力で、  
今年も大盛況となりました。



▼全力で取り組んで頂きました、  
丸太早切大会！！



▼今年も長蛇の列でした



▼三上棟式の様子



▲開催前に記念の一枚。



# ネダテ住建のよってらっ祭 2017

2017年11月12日（日）毎年恒例のチャリティーイベント'よってらっ祭'を開催させて頂きました。

おかげさまで当日はお天気にも恵まれ、晴天の中、たくさんのお客様に御来場頂くことができ、とても有意義な1日を過ごさせて頂きました。

今年は昨年以上の来場数となり、より一層地域の皆様とのつながりを感じられるイベントになりました。

これからも、皆さまのお力を借りながら、毎年、一回一回の開催に感謝を忘れず、大切にしながら、長く続けていきたい所存でございます。

今後とも、どうぞ直しくお願い申し上げます。

LIXILショールーム横浜にて

第1回2017.07.23(日)

第2回2018.02.04(日)

# リフォーム相談

開催致しました!

7月23日(日) LIXILショールーム横浜にて、ネダテ住建初めての企画となりました、第1回単独でのリフォーム相談会を開催しました。

当日はお陰様でたくさんのお客様にご来場頂き、大盛況となり、先日第2回目を2月4日(日)に開催することができました。お越しくださりました皆様、誠に有難うございました。今後も定期的に行っていきますので、今回は都合がつかなかった方もこれからリフォームをお考えの方も、ぜひ足をお運び頂きますと幸いです。



今後ともネダテ住建を宜しくお願い致します。

## ネダテ住建のイベント報告



# 住まいのフチアイデアレポート

エコライフにもひと役

空き瓶を活用して部屋に彩り!

### キッチン用具

調味料やキッチンツールの収納などガラスや陶製の空き瓶はキッチン周りで多彩に活躍。シールやラベルを貼ったり、リボンを巻きつけたり自分好みのアレンジを。



### アクセサリ入れ

コルク蓋にフックを付けて、アクセサリを吊るせば、スマートにディスプレイ。リボンを巻けば、ちょっとしたプレゼントにも!



### 万能小物入れ

瓶に木工ボンドを塗って、麻紐を巻きつけるだけでナチュラルテイストの小物入れが完成。マスキングテープやガラス絵の具でアクセントをつけるのもおすすめ。



### 消臭剤

市販の詰め替え用消臭剤を瓶に入れて、上部を紙ナプキンで飾り付け。トイレや靴箱にさりげなく置いてみて。



# 美空ひばりの初舞台は岡村の天神さまだった

前戦中の父は船乗りだったので欧州航路から帰ると「手の者」を自宅に招いてよく宴会をやりました。「屋根なし市場」の「魚増」がひいきで、ご主人の増吉さんが盤台に入れてきた活きのいい魚を庭先でさばき刺身にしたり煮物をつくったりしてくれました。細身でイナセな「兄い」でしたから近所の奥さんたちも覗きにきました(お目当ては包丁さばきよりもその男前ぶりにあったようでした)。父親についてきた小さな女の子が放し飼いの庭で仔犬とじゃれあっては飛び回っていました。

敗戦間もない頃母がつくづく感じ入ったように言いました。「ねエ、あのハナを垂らしていたオンナノコが美空ひばりなんだってサ!」。そんなことが縁で友愛病院の向かいに和風の豪邸が新築されてから母親は茶道と華道の出稽古に毎週出かけていきました。ひばりちゃんは全国巡業で忙しく母が教えたのは妹の勢津子さんと女中さんたちでしたが、戦後の激変期でわが家も青息吐息。戦前の魚屋とお得意という関係は全く逆転しました。年賀状が多過ぎて郵便局からリアカーで運んだのが新聞記事になった頃です。月末になると母はいつも山本屋への酒代支払いを気にしていましたが、私の学費の幾分かは彼女のギャラのおこぼれが回ってきていたのでしょうから加藤家には感謝しなければなりません。

ふとしたことから彼女の「初舞台」が岡村の天神さまだったと耳にしました。増吉さんが横須賀の海兵団に入営する前だったと言いますから昭和十七年頃、ひばり五～六歳のときのことです。初舞台が磯子のアテネ劇場か杉田劇場かは今でも議論が分かりますが、いずれにせよ戦後のはなし。興業主がいて大勢のお客の前で歌い、初めてギャラをいただくのを初舞台と言うなら、彼女のそれはまさに天神さまの神楽殿だったのです。

念のため現在の宮司さんに真偽のほどを尋ねてみたところ、祖父の宮司からその話を聞いたし二の鳥居前の金本さんのご長女もその時ひばりの歌がよかったと言っていたから間違いはないとのことでした。なんの歌をうたったのかはわかりませんが、当時の流行歌で加藤家の「家風?」に合うものと言えば「大和根月夜」「名月赤城山」「目ん無い千鳥」「湖畔の宿」「蘇州夜曲」などですから、このうちどれかだったろうと確信しています。

滝頭のお祭りの屋台や兵隊送りのときと違ってひばりちゃんも神楽殿の前の境内を埋めた善男善女を前にさぞかし晴れ晴れとした顔だったでしょうし、学問の神様の菅原道真公もこのときばかりは本殿から顔を出してニコニコと聞き惚れ、でも、「歌もいいがたまには勉強もしなさいよ……」などとおっしゃったかもしれません。

## ※今回のこの項の訂正に伴うご挨拶

本来の葛城峻先生原稿では、美空ひばりさんの顔写真が右上に大きく掲載されておりました。弊社の判断でその部分を割愛させていただきました事を、出筆者の名誉の配慮に伴い報告いたします。

**【お知らせ】** 写真付で分かりやすい郷土誌をご家族で読んでみませんか? 価格は2000円(税込)です。葛城先生の新著「やぶにらみ磯子郷土誌」この機会に是非、ネダテ住建までお申し込み下さい。

▼例大祭は賑やかだった



神楽殿の巫女舞い



境内を埋めた参詣客



本殿と神主さん



参道いっぱい埋めたノボリ